

(3) 医療保健連絡会議の開催

医師会学校保健担当医・小児科医・園医が出席

第1回(8月5日)事業説明、健診内容等につき具体的に検討

第2回(1月19日)今年度の取り組み報告

来年度実施に向けての討議、協力依頼

(4) 発達障害者支援体制整備地域協議会の開催

保健・医療・福祉・教育・労働関係者が出席

第1回(9月29日)

第2回(2月28日に予定)

(5) 5歳児モデル健診ワーキング会議(7月~1月)

出席:モデル園(5園)の主任保育士・市町保健・福祉担当者、教育委員会

内容:健診日時、保護者説明会、問診内容、結果の返し方、健診後の支援等について検討

回数:健診までに3回、健診後に1回反省会

(6) 所内プロジェクト会議

毎週月曜日に次長をリーダーとして所長、企画調整室、福祉室、保健室のメンバーで開催(定例化)、事業進行状況の確認、課題等を共有

4 研修会の開催・受講

・ペアレントトレーニング講習会への受講・研修会の開催

・ソーシャルスキルトレーニング講習会への受講・研修会の開催

・発達障害児・者理解のための研修会を開催

「地域と学校と職場における発達障害児・者の支援について」

龍谷大学文学部 友久 久雄 教授

「軽度発達障害者(児)への支援のあり方を考える」

鳥取大学地域学部地域教育学科 小枝 達也 教授

5 保護者説明会の開催(8月~9月)

保護者が児を迎えに来る夕方の時間あるいは夜間に説明会をモデル園(5園)で開催

6 5歳児モデル健診の実施(10月4日~26日)

(1) 事前準備として、市町は、対象児の乳幼児健診の状況を確認

(2) 健診当日

・園に出向いて健診を実施(午前の2時間半程度)

集団観察(30分程度)…市町・保健所保健師が担当

↓↑

診察

…小児科医師2名(所長、担当係長)が担当

(3) 後日、園・市町・保健所の担当者と中間カンファレンスを実施し、結果の返し方について個別に検討

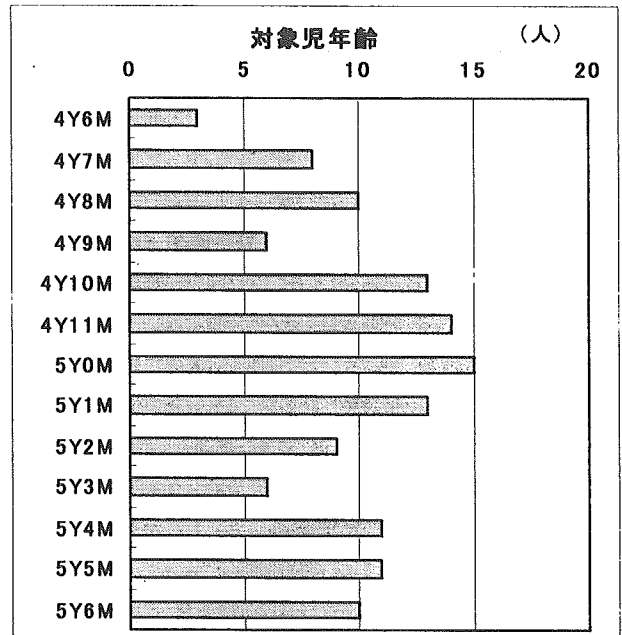
7 5歳児モデル健診の結果

(1) 結果 対象児 130名
(希望しない 1名)

→ 受診児 129名

| | |
|-----------------------|-------------|
| A：問題なし | 76名 (58.9%) |
| B：保護者相談希望 (児は問題なし) | 27名 (20.9%) |
| C：要支援児 | 24名 (18.6%) |
| D：管理中 | 2名 (1.6%) |

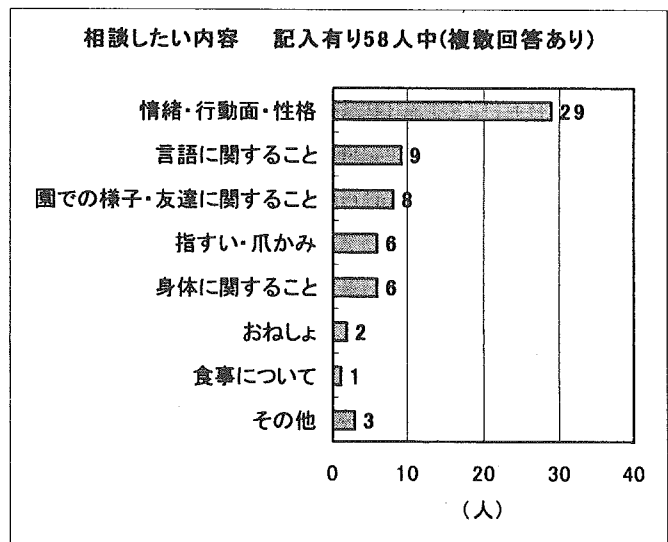
<対象児の年齢分布>



(2) 結果返し

- ・ 書面にて (資料参照)
- ・ B (保護者相談希望あり) 及びC (要支援) については、3者面談 (保護者、園の担任、保健師 and/or 医師) の機会をもつ

<参考>相談希望のある保護者の相談内容



(3) 要支援児について

①性 別

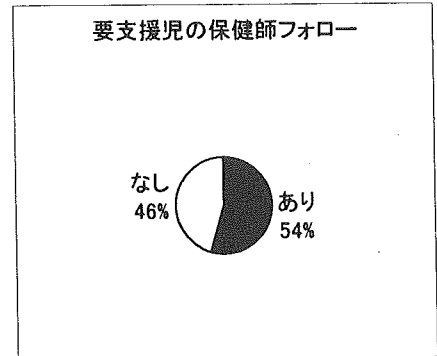
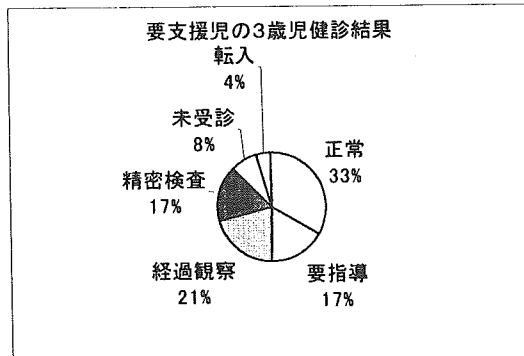
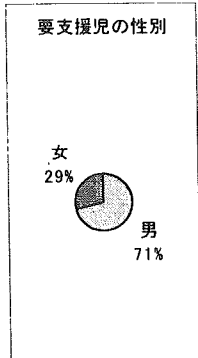
| | |
|---|-----|
| 男 | 17名 |
| 女 | 7名 |

②3歳児健診結果

| | |
|--------|----|
| 正常 | 8名 |
| 指導 | 4名 |
| 経過観察 | 5名 |
| 精密検査 | 4名 |
| 未受診・転入 | 3名 |

③市町保健師フォロー状況

| | |
|-------|-----|
| 既フォロー | 13名 |
| 新規 | 11名 |



3健結果のあるもののうち57%
(全対象児の9.2%)は今回の健診
で初めての介入

(4) 要支援児のフォローについて

・個別支援計画の作成

保健所、市町保健師、園(担任)に助言者を交えて、要支援児への今後の支援策について検討

→定期的に園で経過をフォロー予定

・事後支援策

①発達検査

保護者の了解の得られたケースに実施

②医療・療育機関への紹介

1名は既に通所中(保健所発達クリニックより)

1名は新規に通所予定(医療機関で診断歴あり)

③子どもの遊び方教室(ソーシャルスキル・トレーニング)

6名の参加あり、平成18年1月~7月に計10回の予定で実施中

④ことばの教室

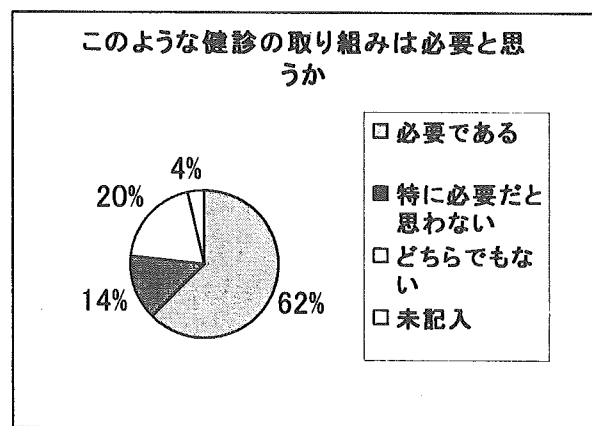
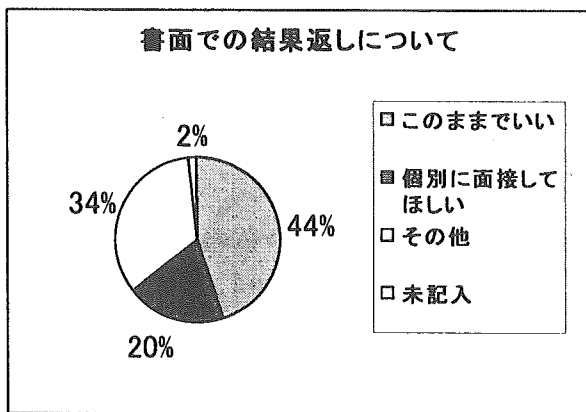
吃音等により就学前に紹介予定

⑤園における発達支援

⑥子どものほめ方教室(ペアレント・トレーニング)

約10名に案内予定(来春からのコース)

8 健診を終えてのアンケート結果（回答者56人）



アンケート理由一覧（一部抜粋）

Q3-① 結果返しの書面での返し方について

③のその他と回答した人の理由

- ・ひと言でもコメントがあればうれしいです
- ・書面でもいいが、一言でも個別に書き添えてほしい
- ・健診の内容を具体的に知らせてほしい
- ・もう少し詳しく、一人一人に対する返事がほしかった
- ・希望される方には面接で返却したらいいと思う
- ・個別面接希望

Q3-② 何かこうしてほしいという希望等

- ・個別の面接まではいりませんので、個々にそった結果にしていきたいと思います
- ・一言では分かりにくく、また他の面ではどうなんだろうと不安も広がります。「こういう場面ではどうだったのだろうか」また「家でこういう風に教えてあげるとよい」などもっとくわしい結果が知りたいと思う。他人から見ても大丈夫ならそうかもしれないが、それでも小学校で子どもが困ることはないのか？と不安に思う保護者は少なくないと思う
- ・せっかく先生方にもアンケートをしていただいたのなら、園での子どものことがもう少し具体的に分かったら嬉しかった

Q4-② 健診をより良いものにするための意見等

- ・仕事の為、同席することができず残念でした。3才半健診以後就学まで何もないよりはあった方が良くと思う。園ではなく保健センターで実施されれば、保護者が同行すれば健診内容についても詳しく知れるようにも思いました。その様子から質問もしやすいかも・・・乳児健診のようにやはり、保護者同伴の健診のほうが子どもの健診内容や結果を把握しやすいように思います

- ・この時期にしっかりみていただいて大変ありがたく思いました。ありがとうございました
- ・逆に、4ヶ月、1才半等の健診と同様な形での健診でもよいのではないかと思う。むしろ4才となると保育園等の団体で行うのもよいのではないか？他の園でも3才以降健診がないので、不安に思っている保護者も中にはいると思う
- ・健診を行っても結果をくわしく知らされていない限り、意味ないものだと思う！「何が出来て何が出来ていない！」など教えて欲しい。何も書面に書かれてなかった。「また見せて下さい」としか！！
- ・保健センターでよくされている何歳児健診のように4歳児もやってもらいたい（内科、歯科、視力）
- ・学童にあがると目に見えない不安が増えると聞くので日々成長するにつれて、親子共に不安を感じてしまう中で、この様な取り組みは支えと安心感につながるので今後も続けて行って欲しいです
- ・子どもにも各自個人差があると思っても、少し遅れているだけなのか、何か問題があるのか、親にも問題があるのか等、自分では分からないので、この様な健診は本当に嬉しいです

<感想>

園・・・良かった点：

- 健診での結果として、保護者が子どもへのかかわりに、よりやさしく時には厳しくでき、支援することにより安心されるのではないか。
- 同じことを言っても、医師からだ保護者に入りやすく、園児の支援に入りやすい
- 園で困っていることも医師に相談できるので安心

課題：

- 健診では、子どもの表情・内容・様子など保育士には分かるが、保護者には分からないので困る。結果が紙一枚でだけでは分かりにくいという意見もあった。
- 「発達障害者支援法」が施行された中で、保育所に於いても相談支援チームが必要かと思われまます。保健所、保健センターとの連携の強化を希望します。
- 福知山市全児童が、4歳児モデル健診が受けられる様に義務付けられることを希望します。（保護者同伴で）

市町・・・○保護者からの相談希望が多く、保護者支援の必要性を感じた。

- 3歳児健診では異常なしのケースも多く、5歳児健診なくして軽度発達障害の早期発見はできないのではないか。
- 園との連携もしやすくなり、児や児をとりまく環境が把握しやすい。
- 健診の機会をとおし、予防接種のフォローができたケースもあった。
- 今後、この健診を市が実施できるか不安。（実施する場所や担当課、子育て相談として応援する課、発達評価や受け皿の場所・専門職確保、教育との連携、人、予算、未集団児への健診等）府の方針が決まらなないと、見通しが立たない。

9 今年度の今後の取組予定

- ・保護者への報告会
- ・事後支援の開始

10 今後の課題

(1) 健診内容の検証

- ①健診判定結果と問診票、診察、集団観察の視点の妥当性の検討
→最終的には就学後の子どものQOLの把握
- ②保護者、保育士からの意見・感想から問題点の検討
- ③5歳児健診結果と乳幼児健診結果の関連についての検討

(2) 18年度の実施に向けて

- ①上記をうけて
 - ・健診システムの見直し
対象児を拡大して(福知山市の全5歳児及び未就園児)
実施できる体制づくりに向けて
 - ・健診内容の修正
 - ・説明会や結果返しのあり方についての見直し
 - ・年間スケジュールの計画
- ②関係者との調整
 - ・福知山市と協働実施
平成18年、19年度は福知山市における発達障害者
圏域支援体制整備事業の中に5歳児健診事業が位置づ
けられ、保健所と協働体制で実施の予定
 - ・医師会への協力依頼
 - ・園長会への報告、協力依頼

(3) サポート体制の確立と人材育成

- ①支援計画作成の場の持ち方(いつ、どこで、誰が、どのように)
- ②ソーシャルスキル・トレーニング(専門的人材確保、場の確保、運営方法)
- ③ペアレント・トレーニング
- ④園支援(誰がどのように行っていくのか)

(4) 要支援児の就学に向けて

- ・教育委員会との連携
- ・保護者の主体的活動支援

5歳児モデル健診 検討資料

★メリット、★デメリット、※検討事項、○今後も望まれる点、＜＞スタッフ

| | 全体のながれ | 健診 | 中間カンファレンス | 結果返し | 事後支援 |
|------------|--|--|--|---|---|
| 17年度実施スタイル | <ul style="list-style-type: none"> ①保護者説明会 ②健診 ③中間カンファレンス ④結果返し ⑤支援開始 | <ul style="list-style-type: none"> ・実施…10月 7園 129名 ・実施場所:園(希望者のみ保護者同席) ①問診票(保護者・担任) ②診察(担任が同席) ③集団観察(設定/自由保育) ＜保健所小児科医2名＞ ＜市町・保健所保健師＞ | <ul style="list-style-type: none"> ・10、11月実施(原則健診1週間以内に保育士と健診スタッフで、結果及び今後の支援を検討) ＜保健所小児科医、保健師、園＞ | <ul style="list-style-type: none"> ・11月、受診児全員に保育園から文書にて保護者に返してもらう ・園には特に問題がないが、保護者が心配している(B)については保健師が、要支援児(C)保護者には小児科医及び保健師・保育士が同席返却 ＜保健所小児科医、保健師、園＞ | <ul style="list-style-type: none"> ①医療・療育 ②発達評価 ③ソーシャルスキルトレーニング ④ペアレントトレーニング ⑤園支援 (要支援児を定期的に園にてフォロー) ＜保健所小児科医、保健師、園、作業療法士、臨床心理士＞ |
| メリットとデメリット | <ul style="list-style-type: none"> ★児の集団での様子がよくわかる ★保護者には様子がわかりにくい | <ul style="list-style-type: none"> ★カンファレンスにより、児を多面的に把握でき、支援方法を考えやすい ※スタッフ確保 | <ul style="list-style-type: none"> ★カンファレンスにより、児を多面的に把握でき、支援方法を考えやすい ※スタッフ確保 | <ul style="list-style-type: none"> ★直接園いよくわかった BC ★直接健診時の様子や結果を聞きたい A ※スタッフ、日程の確保 ※結果票の検討 ※希望者については面接の機会を確保(親と子の健康相談日を利用する?) ○園での結果返しが保護者への負担が少ない上に、園での支援にもつなげやすい | <ul style="list-style-type: none"> ※家庭事情等により支援の受けられない児 →園での発達支援・保護者支援の必要性 →巡回相談スタッフの確保 ※地域でのサポート体制の充実 ※18年度からは教育との連携 |
| 18年度に向けて | <ul style="list-style-type: none"> ※未就園児の健診の場確保 | <ul style="list-style-type: none"> →診察については必要児のみという方法も園児数によっては数園合同実施の方法も ※統一したマニュアルが必要 ○園で実施するメリットが大きい ○年中の秋の実施(フォロー期間が1年ある、児が集団生活になじんだ時期である) | <ul style="list-style-type: none"> ※結果の判定をどのメンバーで行なっていくか) ※園毎に行なうには人的にも時間的にも限界がある | <ul style="list-style-type: none"> ○園での結果返しが保護者への負担が少ない上に、園での支援にもつなげやすい | |

<参考>

| | | | | | |
|-------------------------------|---|---|--|---|--|
| (例1)保健センターで実施(一括方式) | <ul style="list-style-type: none"> 従来の乳健同様の方式(年24回) ★未就園児も受診可能 ★即日結果が返る ★保護者の未所時間 ★健診会場の確保 | <ul style="list-style-type: none"> ①診察(1回35人前後) ②衛生教育(栄養含む)や集団観察 ※医師の確保 ★母にとって理解しやすい ★平均化したものとなる(同月齢) ★普段の集団の様子がわかりにくい ★未受診児フォロー | <ul style="list-style-type: none"> ・母からの情報と健診結果から健診終了後、保健師で検討 ★園からの情報がなければ、集団での様子と併せての判断が難しい | <ul style="list-style-type: none"> ・当日保健師が面談で ★母にとつて納得しやすい ★健診後のフォローが難しいケースも(保護者が心配していない場合は特に) ※健診後の園との連携 | <ul style="list-style-type: none"> ★園支援が難しい (園で困っている児について健診結果との一致がない場合は特に) |
| (例2)園で健診(保健センターで相談事業実施(分離方式)) | <ul style="list-style-type: none"> ①園健診 ②要支援児をセンターへ ③集団観察 ★保護者の負担も少なく、園の様子もわかる。健診回数は少なくて済む ※園医の協力が不可欠 ※統一したマニュアルが必要 | <ul style="list-style-type: none"> ①問診票 ②診察(園健診とドッキング) ③集団観察 ★保護者の負担も少なく、園の様子もわかる。健診回数は少なくて済む ※園医の協力が不可欠 ※統一したマニュアルが必要 | <ul style="list-style-type: none"> ・育児相談は保健師が園で ・要支援児の結果はセンターで医師から | <ul style="list-style-type: none"> ★育児相談は保健師が園で ・要支援児の結果はセンターで医師から | <ul style="list-style-type: none"> ★園支援は行いやすい |

配布資料

資料1 5歳児モデル健診説明資料（パワーポイント）

資料2 問診票、カルテ類

資料3 保護者配布用啓發文書

資料4 結果返し文書（4パターン）

資料5 新結果返し（案）

資料6 結果の評価基準

資料7 5歳児モデル健診事業の流れとスタッフ一覧

資料8 モデル健診の様子（診察・集団観察）

資料9 鳥取県における5歳児健診の取り組み（記事）

中丹西保健所 5歳児モデル健診の位置づけ

発達障害者支援体制整備事業実施要項に
基づく、都道府県支援体制整備事業

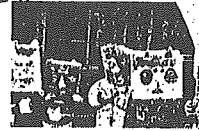
(⑰～⑲年3カ年事業)として京都府が設置
する「発達障害者支援体制検討委員会」に
おける、現場の実態を把握し今後の支援の
あり方を検討するための3カ年(⑰～⑲)モ
デル事業。

中丹西保健所 5歳児健診モデル事業の理念

- ◆すべての子どもが楽しんで就学期を迎えられること
- ◆すべての保護者が育児に自信を持って子どもを
就学させることができること
- ◆可能な限り、至れり尽くせりの支援体制があること
- ◆地域で多様な療育プログラムを利用できること

5歳児健診の目的

1. 乳幼児期の子育てを振り返り、育児不安を軽減するとともに、親子で楽しく就学期を迎える準備を始める契機とする。
2. 子どもに対する理解を深め、軽度発達障害や種々の要因による集団不適応などの発達上の課題に対し、保護者と保育者が共通理解の基に、個別のおよび集団的援助によって子どもが持てる力を十分に発揮できるように養育環境を整える。



5歳児健診の重点

言語発達、行動統制力、対人関係

問診

- * 1 生活習慣(生活リズム、食事、テレビ)、* 2 登園状況、* 3 育児不安
- 4 精神運動発達、5 友達関係、6 問題行動、7 視聴覚の問題
- * 8 子どもの長所 9 育児相談したいこと (*:保護者のみ)

集団観察

指示理解、集中力、易刺激性(気の散りやすさ)、集団行動、友人関係
ルールの理解、運動の巧緻性、など

診察

- 1 会話:理解力、構音機能、対人関係
- 2 動作の模倣:指示理解、診察への協力性、器用さ(協調運動)、運動企画力
- 3 閉眼立位:平衡機能
- 4 物の用途説明:概念の発達
- 5 左右の理解
- 6 閉眼の維持:行動統制力、情緒の安定さ
- 7 ジャンケン:知的機能
- 8 しりとりに:知的機能、音韻の意識

今後の計画

H17-19年度
京都府支援体制整備事業の
一環としての京都府3カ年モデル事業



H18-19年度
福知山市における
圏域支援体制整備事業

H18年度

H17年度健診を基礎として、より実践的で保護者及び
保育関係者に受け入れられるモデル健診実施。

H19年度

18年度モデルを検証後、規模を拡大し定期健診として実施
可能な方策を模索するとともに、育児支援体制の確立を図る。

課題

- 1 モデル健診を全保育園・幼稚園に拡大するための手法の模索
(健診内容の検証、効率化の検討・人材と予算確保等)
- 2 全保護者に満足していただける結果返しの方法の検討
- 3 療育支援(ほめ方教室、遊び方教室、園巡回助言)スタッフの確保
- 4 要支援児の保護者に対する継続援助
- 5 育児・療育支援から教育支援へのバトンタッチ
(保護者の主体的活動支援)

5歳児モデル健診 (就学前子どもとからの健康福祉支援モデル事業)

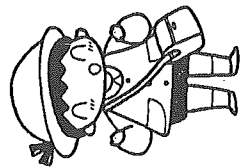
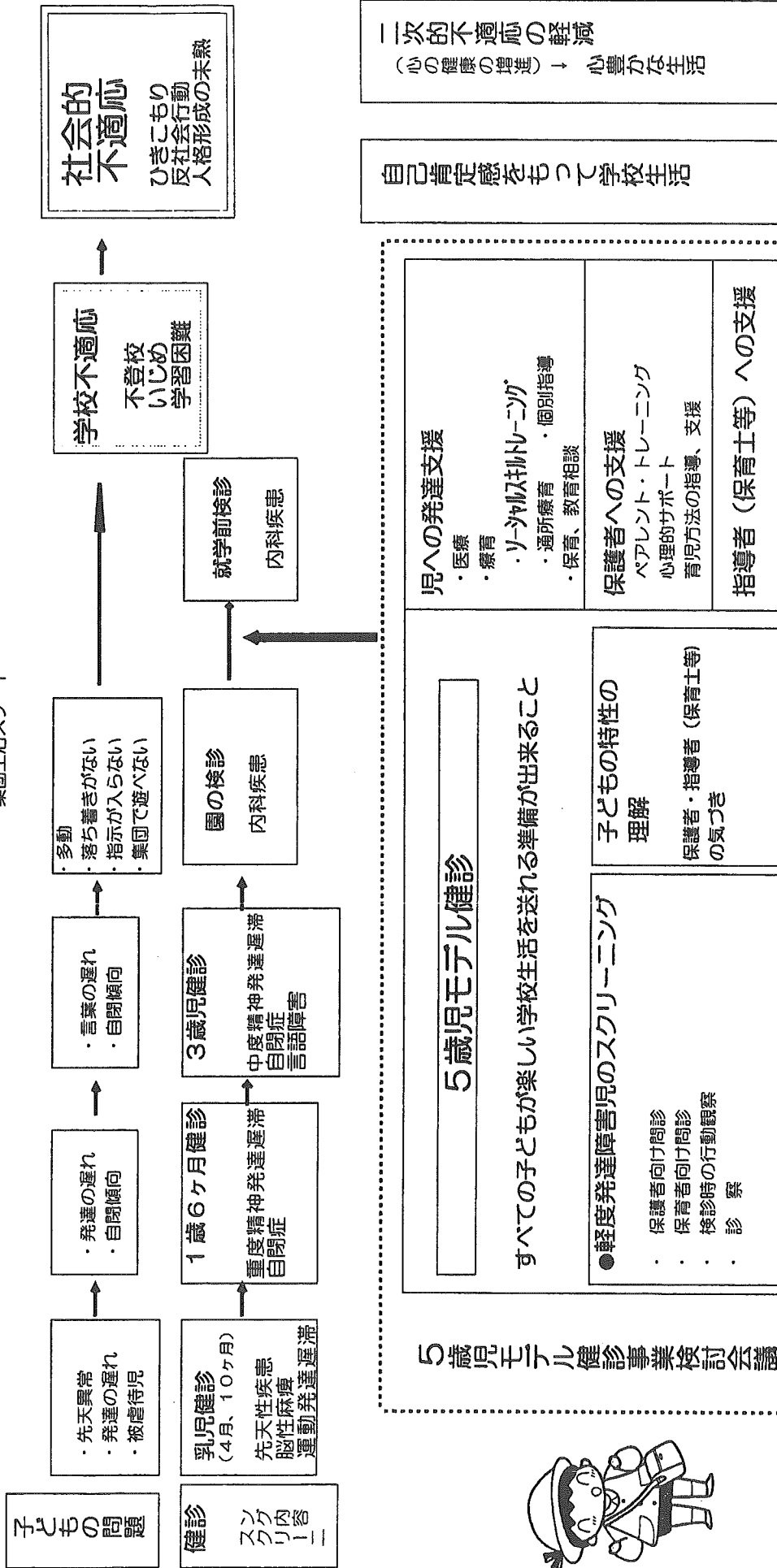
ライフステージ < 乳幼児期 >

< 就園 >

集団生活スタート

< 就学 >

< 思春期・青年期 >



乳幼児定期健康診査の重点

| | 新生児室 | 1カ月健診 | 4(3)カ月健診 | 10(9)カ月健診 | 1歳半健診 | 3歳児健診 | 5歳児健診 |
|--|-----------------------|-----------------------|------------------|------------------|-----------------------|---|---------------------------------------|
| リスク要因の確認・追跡 | | ◎ | ○ | | | | |
| 成長の確認(身体計測) | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| 発達評価 姿勢運動発達 精神発達(認知、操作、言語、社会性) | | ○ | ◎ ○ | ◎ ◎ | ◎ ◎ | ◎ ◎ | ◎ |
| 生活習慣の確認 栄養・食習慣 虫歯予防 | | ○ | ◎ | ◎ ○ | ◎ ◎ | ◎ ◎ ◎ | ◎ ◎ ◎ |
| 養育環境・母子関係 環境不適応、行動上の問題 | | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ ○ | ◎ ◎ | ◎ ◎ |
| 疾病・障害の発見 先天異常 発達障害:脳性麻痺 精神遅滞 自閉症 注意欠陥多動性障害 学習障害 発達性協調運動障害 | ◎ | ◎ 最重症 | ○ 重症 重症 | 中症 重症~中症 | 軽症 中~軽症 重~中症 | 微軽症 軽症 中症 ...○ ○ ○ 視力検査 | 軽症~境界域 軽症:Aspe ◎ ◎ ◎ ◎ |
| 聴覚障害 視覚障害 内科的疾患 検査 | | ○ | ◎ ◎ ◎ | ◎ ◎ ◎ | *聴覚検査 新生児マススクリーニング | ◎ ◎ ◎ | ◎ ◎ ◎ |
| 育児支援・育児相談 保健指導 栄養指導 療育支援 関係機関連携 | ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ | ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ | ◎ ◎ ◎ ◎ | ◎ ◎ ◎ ◎ | ◎ ◎ ◎ ◎ | ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ | ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ |

○:重点項目 ◎:最重要項目

□:3歳児健診以後未実施

4 歳児クラスモデル健診

心と体の健康カード

保護者用

() 保育園 記入日： 月 日
 生年月日：平成 年 月 日 性別：男・女 名前 ()

モデル健診を 受けます ・ 受けません
 →「受けます」と答えられた方は以下の問診にお答えください

- 1 起きる時間、寝る時間は何時頃ですか。
 () 時頃起きる () 時頃寝る
- 2 「おはよう」「いただきます」などのあいさつができますか。
 はい ・ いいえ
- 3 食事について気になることはありますか。
 ない ・ ある ()
- 4 休日にテレビやビデオをどれくらい見ますか。
 () 時間くらい
- 5 テレビゲームを毎日どれくらいしますか。
 したことがない ・ 30分未満 ・ () 時間くらい
- 6 登園前は自分で顔を洗い、歯磨きをすませていますか。
 はい ・ いいえ
- 7 妊娠 () 週、体重 () g で出生した。
- 8 出生時に何か変わったことはありましたか。
 ない ・ ある ()
- 9 これまでの乳幼児健診で何か指摘をされたことがありますか。
 ない ・ ある ()
 →「ある」の場合、そのことで今も続けて行っている施設があればお書きください。
 ()
- 10 これまでに大きな病気や事故をしたことがありますか。
 ない ・ ある ()
- 11 現在治療中あるいは経過をみてもらっている病気はありますか。
 ない ・ ある ()
- 12 目が悪いという心配はありませんか。
 ない ・ ある ()
- 13 耳が悪いという心配はありませんか。
 ない ・ ある ()
- 14 お子さんの好きな遊びを2つ教えてください。
 () ()
- 15 遊び友達がいますか。
 はい ・ いいえ
- 16 集団生活になじめ毎日楽しそうに登園していますか。
 はい ・ いいえ
- 17 生き物をかわいがったりなど思いやりの気持ちを持っているようですか。
 はい ・ いいえ
- 18 しつけについての不安や心配はありますか。
 ない ・ ある ()

19 現在のお子さんの発達の様子についておたずねします。

- | | |
|----------------|------------------|
| ①スキップができる | (はい、いいえ、わからない) |
| ②ブランコがこげる | (はい、いいえ、わからない) |
| ③片足でケンケンができる | (はい、いいえ、わからない) |
| ④お手本を見て四角が書ける | (はい、いいえ、わからない) |
| ⑤大便が一人でできる | (はい、いいえ、わからない) |
| ⑥ボタンのかけはずしができる | (はい、いいえ、わからない) |
| ⑦友達とごっこ遊びができる | (はい、いいえ、わからない) |
| ⑧ジャンケンの勝敗が分かる | (はい、いいえ、わからない) |
| ⑨自分の名前が読める | (はい、いいえ、わからない) |
| ⑩発音がはっきりしている | (はい、いいえ、わからない) |
| ⑪自分の左右がわかる | (はい、いいえ、わからない) |
| ⑫家族に言って遊びに行ける | (はい、いいえ、わからない) |

20 お子さんの様子にあう欄に○をしてください

| | ない | 少しみられる | かなりみられる |
|-----------------------|----|--------|---------|
| 1 課題に集中して取り組めない | | | |
| 2 外からの刺激に気が散りやすい | | | |
| 3 指示通りに行動できない | | | |
| 4 座っているべきところで席をはなれる | | | |
| 5 落ち着きがない | | | |
| 6 順番を待つことが困難 | | | |
| 7 手足をそわそわしている | | | |
| 8 自分からけんかになりやすい | | | |
| 9 かんしゃくをおこしやすい | | | |
| 10 ルールに従ってあそぶことが苦手 | | | |
| 11 注意しても聞かない | | | |
| 12 好きなことしかしない | | | |
| 13 友達とうまく遊べない、一人遊びが多い | | | |
| 14 こだわりが強い | | | |
| 15 不器用である | | | |

21 お子さんの良いところや得意なこと、あなたが自慢に思われるところを1つ以上挙げてください。

(

)

22 お子さんの様子で相談したい事がありますか。

特にない

相談したい (

)

23 健診当日の同席を希望されますか。

希望する ・ 希望しない

保育園

4歳児クラスモデル健診

子どもの心と体アンケート

担任用

生年月日： 年 月 日

性別：男・女 氏名（

）

- 1 食事について気になることはありますか。
ない ・ ある（ ）
- 2 目が悪いという心配はありませんか。
ない ・ ある（ ）
- 3 耳が悪いという心配はありませんか。
ない ・ ある（ ）
- 4 好きな遊びを2つ教えてください。
（ ）（ ）
- 5 遊び友達がありますか。 はい ・ いいえ
- 6 利き手はどちらですか。 右 ・ 左 ・ はっきりしない
- 7 現在のお子さんの発達の様子についておたずねします。
- 8 お子さんの様子にあてはまるものに○をつけてください。
 - ①スキップができる (はい、いいえ、わからない)
 - ②ブランコがこげる (はい、いいえ、わからない)
 - ③片足でケンケンができる (はい、いいえ、わからない)
 - ④お手本を見て四角が書ける (はい、いいえ、わからない)
 - ⑤大便が一人でできる (はい、いいえ、わからない)
 - ⑥ボタンのかけはずしができる (はい、いいえ、わからない)
 - ⑦友達とごっこ遊びができる (はい、いいえ、わからない)
 - ⑧ジャンケンの勝敗が分かる (はい、いいえ、わからない)
 - ⑨自分の名前が読める (はい、いいえ、わからない)
 - ⑩発音がはっきりしている (はい、いいえ、わからない)
 - ⑪自分の左右が分かる (はい、いいえ、わからない)

| | ない | 少しみられる | かなりみられる |
|-----------------------|----|--------|---------|
| 1 課題に集中して取り組めない | | | |
| 2 外からの刺激に気が散りやすい | | | |
| 3 指示通りに行動できない | | | |
| 4 座っているべきところで席をはなれる | | | |
| 5 落ち着きがない | | | |
| 6 順番を待つことが困難 | | | |
| 7 手足をそわそわしている | | | |
| 8 自分からけんかになりやすい | | | |
| 9 かんしゃくをおこしやすい | | | |
| 10 ルールに従ってあそぶことが苦手 | | | |
| 11 注意しても聞かない | | | |
| 12 好きなことしかしない | | | |
| 13 友達とうまく遊べない、一人遊びが多い | | | |
| 14 こだわりが強い | | | |
| 15 不器用である | | | |

- 9 お子さんの様子で相談したい事があればお書きください。

4歳児クラスモデル健診診察カルテ

()保育園

年 月 日生(Y M)

男・女

氏名()

| | 項目 | 判定 | 〇と判定する目安 | コメント |
|-------------------------|------------------|----|--------------------------------------|------|
| 1 | 会話 | | 正確に答える | |
| 2 | 会話 | | 正確に答える | |
| 3 | 会話 | | 正確に答える | |
| 4 | 会話 | | 正確に答える | |
| 5 | 会話 | | 正確に答える | |
| 6 | 会話 | | 母の様子をうかがいながら答える、感情(照れる・笑うなど)の表出が見られる | |
| 7 | 会話 | | 明瞭であり、聞き返しが不要である | |
| 8 | 動作模倣 | | 正確に模倣する | |
| 9 | 動作模倣 | | 正確に模倣する | |
| 10 | 動作模倣 | | 正確に模倣する | |
| 11 | Coordination | | ステップを踏まない | |
| 12 | Coordination | | 3秒片足で立てる | |
| 13 | Coordination | | 3秒片足で立てる | |
| 14 | Coordination | | 5回以上連続して可能 | |
| 15 | Coordination | | 5回以上連続して可能 | |
| 16 | Coordination | | ミラーが出ない | |
| 17 | Coordination | | ミラーが出ない | |
| 18 | Coordination | | 回内・回外になっている | |
| 19 | Coordination | | 回内・回外になっている | |
| 20 | Coordination | | 交互に開閉できる(3往復) | |
| 21 | 概念 | | かぶるもの | |
| 22 | 概念 | | はくもの | |
| 23 | 概念 | | ごはんを食べるもの | |
| 24 | 概念 | | 読むもの | |
| 25 | 概念 | | 時間を見るもの | |
| 26 | 概念 | | 右手を挙げる | |
| 27 | 概念 | | 左手を挙げる | |
| 28 | 概念 | | 3回とも正確に勝ち負けがわかる | |
| 29 | 概念 | | 3往復し、しりとりが正確に出来る | |
| 30 | Motor insistence | | 20秒間閉眼可能 | |
| 31 | Motor insistence | | 自己刺激がない | |
| <p><診察時の特記事項></p> | | | | |

<集団での行動観察> (保健師:)

<医師の所見> (医師:)

<総合判定>

●生活習慣

●発達 ・正常
・問題点

●結果返し 結果票 (A ・ B ・ C ・ D)

●その他特記事項

子どもの健やかな成長と発達のために

～ 4 歳児クラスの保護者の皆様～

“健診の問診票の中で多かった相談内容”
“就学をひかえたお子さんへのしつけ”
“この時期のお子さんのできる力を伸ばしていくには・・・”など4～5歳のお子さんの子育ての参考になる内容をまとめました。



<おねしょについて>

幼児期にみられる夜尿（おねしょ）は、発達の過程でみられる生理的なもので心配はないと考えられます。対応の基本は「起こさず・あせらず・しからず」です。

- 夜間に起こして排尿させると、見かけ上はおねしょはなくなりますが、おねしょへの根本的な対策にはなりません。
- 夕食後の水分摂取を控えめにしたり、就寝前にゆっくり入浴する、ふとんをあたためておく等が有効な場合もあります。
- この時期のおねしょについて心配されている保護者の方は多いようですが、決してしからずにみてあげましょう。
- 小学校入学後にも続くようであれば一度泌尿器科や小児科で相談してみましよう。

<指すいについて>

幼児期後半まで指すいがやめられないというのもよくある相談です。この時期になると本人も自覚しているけれどやめられないというのがほとんどなのではないでしょうか。また、吸っているのも眠る前、することがなくて手持ちぶさたなとき、何かを待っているとき等に限られてきているのではないのでしょうか。指すいが長く続くことによる問題は歯並びへの影響です。健診などで指摘があった場合には歯医者さんに経過をみてもらいましょう。誕生日などをきっかけに親子で話し合っやめるように取り組んでみるなどきっかけをつくることでうまくいくこともあります。

<メディアとうまくつきあうことが大切です>

現代のメディア機器（テレビ・ビデオ・テレビゲーム機・インターネット・携帯電話）の進歩はめざましく、私たちの生活は大変便利なものとなっています。しかし、子どものメディアへの過剰接触による問題が専門家の中で指摘され始めています。



日本小児科医会からは、2004年2月に以下の提言が出されました。

「子どもとメディアに対する提言」

- ① 2歳までのテレビ・ビデオ視聴は控えましょう
- ② 授乳中、食事時のテレビ・ビデオ視聴は控えましょう
- ③ すべてのメディアへ接触する総時間を制限することが重要です
1日2時間までを目安と考えます
テレビゲームは1日30分までを目安と考えます
- ④ 子どもの部屋にはテレビ、ビデオ、パーソナルコンピューターを置かないようにしましょう
- ⑤ 保護者と子どもでメディアを上手に
利用するルールを作りましょう

毎日テレビやビデオを長時間みることは、睡眠リズムへの影響、視力の悪化、運動不足、家族の会話が減少するなど子どもの健やかな発達を考える上では、様々な悪影響が考えられます。メディアとのつきあい方についてぜひ家族一緒に考え、取り組んでいただきたいと思います。

<食習慣について>

この時期の肥満は、将来の生活習慣病のリスクになりますし、虫歯から歯を守るためにも食習慣は大切なものです。

この時期からよい食習慣の基礎づくりをしましょう。

- 主食と野菜をしっかり食べ、いろんな食品をバランス良く食べよう。
- 「朝食は脳へのエネルギー」、朝食は家族一緒に食べて、しっかり食べさせよう。
- おやつは時間と量を決めて食べさせよう
- 「よく噛む」ことをこころがけよう。

よく噛むためには虫歯があれば早目に治療しましょう。

